

仕組みを理解することと、丸ごと覚えること

—sit up and take notice から学ぶ—

平沢慎也

hiralingual1026@gmail.com

キーワード： 使用基盤モデル 頻度の偏り 生態的地位 身体的姿勢と心的態度 合成性

要旨

英語の sit up and take notice は、注目に値しないとたかをくくっていたのが、何らかのきっかけによって、急に関心や驚きを示しだすことを指す。使役動詞 make の使役補文内で使われる頻度が高く、このときその「きっかけ」が主語に来る。sit up and take notice の意味は, sit, up, sit up, take notice, VP₁ and VP₂ 構文といった構成要素が sit up and take notice 以外のところで担っている意味と密接に関わっている。このことから, sit up and take notice という表現の仕組みを理解することは, 少なくともある程度までは可能であると言える。しかし, sit up and take notice の意味のうちどこまでが sit up の意味でどこからが take notice の意味であるかを特定することもできなければ, sit up and take notice が高頻度の言い回しであることを構成要素の性質から予測することもまた不可能である。このことから, sit up and take notice という表現を一つの単位として丸ごと記憶することもまた必要であると言える。こうした考察を通じて我々が sit up and take notice から学ぶべきことは, 言語表現の仕組みを理解することと, その表現を丸ごと覚えることは, 単純な二律背反の図式で捉えられるべきではないということである。

1. はじめに

私は、大学以外に学習塾でも英語を教えている関係で、毎年2月26日の夜は東京大学の入学試験の英語の問題を解いて過ごすことになる。どの年も様々な発見があって楽しいのだが、今年（2016年）は特にリスニング問題の放送文の中で使われたある表現に目を引かれた。それは sit up and take notice である。

(1) This kind of rapid rise in prices would make any investor **sit up and take notice** [...]

(2016年2月26日東京大学入学試験問題第3問 (A) 放送文)

このような形で価格が急激に上昇すると、どんな投資家でもはっとして注意を向けるだろう [...]

見覚えがある表現だと思って辞書を引いてみると、次のように定義され例文も載っている。a.

が定義文で、bが例文である。なお、本稿では紙面の都合で英英辞典の名称を略記しているが、正式名称については参考文献一覧を参照していただきたい。

- (2) a. **sit up and take notice:** to suddenly pay attention to (someone or something) (MWALED)
sit up and take notice: 急に（人・ものに）注意を向けること
- b. The news made them **sit up and take notice.** (MWALED)
その知らせを聞いた途端に、彼らははっとした様子で話を聞き始めた。

『アメリカ口語辞典』はまた少し違った角度から詳細な記述を提供してくれている。

- (3) sit up and take notice (of *something* [*someone*]) [sɪdʌpən tɛɪk nɔːdɪs] (口)¹ (急に興味
が湧いて) 注目する 「(たいしたことはないとかかをくくってのんびりして座っ
ていた人が) 体を起こして (sit up and) 注意を向ける (take notice)」というところか
らきた表現。実際には、いちいち「体を起こす」という動作が入るわけではなく、た
んに「(急に) 注目する」「(途中から) 注目しだす」の意味で使われる。He has long been
considered a second-class writer, but his most recent novel has at last made the critics sit up
and take notice. (彼は長い間、二流の作家だと考えられてきたが、彼の最新作は、とう
とう批評家たちの注目するところとなった)。Though the fortune-teller had been widely
ridiculed, when his first predictions came true the people began to sit up and take notice. (その
占師はだいぶばかにされていたが、彼の最初の予言が当たったとき、人々は急に注目
し始めた)。「～に (注目する)」という場合には of *someone* [*something*] の形で続く。
If Sally won't give you a tumble, go out and date some other girls. That ought to make her sit
up and take notice of you. (もしサリーがきみに色好い返事をしないなら、ほかの女の子
たちとデートしろよ。そうすれば、彼女はきみに注意を向けてくれるはずだ)。
(マケーレブ&安田 1983)

関心を持って見てみると、自分が読んでいる本のいたるところに sit up and take notice が溢れて
いることに気がつく。(4) では、編集者が優れた小説を前にして「この書き手はただものでは
ない」と驚きを示す様子が sit up and take notice で表されている。(5) では、教授が学生の提出
した論文を読む際に、馬鹿にした態度をとるのではなく、いわば学者としてのスイッチをオン
にして読むということを表わすのに sit up and take notice が使われている。(6) は Hector という
映画監督の作品の特徴を説明している場面である。裸体や排泄など何気ない日常生活の一面で
はあるけれども映画のスクリーンに映されることのない諸側面が描かれることで、観ている者
はぼうっと見過ごすのではなく、若干の緊張とともに注意を向ける (sit up and take notice) こと

¹ (口) は「口語的表現ではあるが、比較的改まった文章に使っても差し支えない表現」の意。

を強いられる（なお、3.3 節でもう少し詳しく見ることになるが、この (6) は、sit up と and take notice の間に別の要素が入り込んでいる比較的珍しい例であり、注目に値する）。

- (4) What I'm going to do is a *serious* novel, something that'll make 'em **sit up and take notice**.

(Roald Dahl, "The Great Automatic Grammatizator" from *Someone Like You*)

私が書きたいのは本格的な小説なのだよ。何かこう、出版社の連中が「これは」と注目するような小説。

- (5) "A pretentious title, I'm sorry to say. But I couldn't think of anything better."

"Pretentious is good. It makes the professors **sit up and take notice**. You got an A plus, didn't you?"

(Paul Auster, *The Brooklyn Follies*)

「我ながら勿体ぶったタイトルですよ。でもそれ以上いいのが思いつかなかったんです」

「勿体ぶっていいのさ。教授連中が背筋を伸ばして本気で読むから。A プラスをもらったんだろう？」

(柴田元幸 (訳) 『ブルックリン・フォリーズ』)

- (6) Naked bodies. Down-to-earth sex. Childbirth. Urination, defecation. Those scenes are a bit shocking at first, but the shock wears off rather quickly. They're a natural part of life, after all, but we're not used to seeing them presented on film, so we **sit up** for a couple of seconds **and take notice**.

(Paul Auster, *The Book of Illusions*)

裸体に、日常のセックス、出産。排尿に、排泄。こういうシーンを見せられると、はじめは少しぎょっとしてしまうけれど、そのショックも案外すぐにやわらぐの。なんだかんだ言って日常生活の一部だからね。でも、映画で見せられることには慣れていないから、数秒の間ハッとさせられたあと、しっかり見入ってしまう。

さて、本稿で試みたいのは、以下の二つである。

- (7) a. sit up and take notice の意味と使用の特性を正確に捉えること。(第 2 節)
b. sit up and take notice の構成要素である sit up, take notice, VP₁ and VP₂ が sit up and take notice 以外の表現において使われた場合に見せる意味と使用の特性が、sit up and take notice の意味と使用の特性とどのように関わっているかを明らかにすること。(第 3 節)

結論 (第 4 節) を先取りすると、この試みを通じて、sit up and take notice という表現に関して次のような極端な二つの立場のいずれもとってはいけないということが明らかになる。その二つの極端な立場とは、「sit up and take notice は構成要素である sit up や and などの意味・用法と

全く無関係で（従って英語の体系において完全に孤立しており）いわゆる丸暗記をするしかない表現だ」という立場と、「sit up and take notice は構成要素である sit up や and などの意味・用法さえ知っていれば完全に予測できる性質しか持たず、従って覚える必要のない表現だ」という立場である。私の分析が正しければ、このいずれの立場も sit up and take notice を習得する道筋にはならない。その中道—すなわち、sit up and take notice を、構成要素である sit up や and の性質と関連させて理解しつつ、かつひとまとまりの単位として覚えるという道—こそが、母語話者の選りよっている道であり、ひいては英語を第二言語として学習している者が選りよるべき道である。

2. sit up and take noticeの意味と使用

2.1 sit up and take noticeの意味

まずはsit up and take noticeの意味を複数の英英辞書で確認してみよう。各a文は定義文に対応し、各b文は例文に対応する。(8) は (2) を再掲したものである。(12) と (13) の辞書では、sit upの項目こそあるものの、sit up and take noticeのための独立項目は立てられていないので、筆者が「きっとこの辞書編集者はsit up and take noticeとsit upに大きな意味の違いはないと考えているはずだ」と決めつけて引用していることを正直に認めておきたい（といっても、そのように想定するのが的外れではないことは第3節で納得していただけることと思う）。

- (8) a. **sit up and take notice:** to suddenly pay attention to (someone or something) (MWALED)
sit up and take notice: 急に（人・ものに）注意を向けること
- b. The news made them **sit up and take notice**. (MWALED)
その知らせを聞いた途端に、彼らははっとした様子で話を聞き始めた。
- (9) a. **sit up (and take notice):** to suddenly start paying attention to someone, because they have done something surprising or impressive (LDOCE5)
sit up (and take notice): ある人が何か驚くべきこと、ないし見事なことをしたために、その人に対して急に注意を向けるようになること
- b. If Maria succeeded, then everyone would **sit up and take notice**. (LDOCE5)
もしもマリアが成功したら、みんな急に彼女に注目しだすんだろうけどね。
- (10) a. **sit up and take notice:** to suddenly start paying attention to someone or something (LPVD)
sit up and take notice: 急に人ないしものに注意を向け始めること
- b. People are starting to **sit up and take notice** about the dangers of genetically modified foods. (LPVD)
人々は急に遺伝子組み換え食品の危険性に注意を払うようになってきている。
- (11) a. **idiom sit up and take notice** *INFORMAL* to show interest or surprise (CALD3)
[イディオム] **sit up and take notice** (インフォーマル) 興味ないし驚きを示すこと
- b. She **sat up and took notice** when she heard he was getting married. (CALD3)

彼女は、彼が結婚すると聞いて、ぎょつとした様子で話に耳を傾け始めた。

- (12) a. The same sense appears in the related **sit up and take notice** (AHD1)

同じ意味（筆者注：sit up と同じ ‘Become suddenly alert’ の意味）が、関連表現である sit up and take notice にも現われる

- b. When he mentioned the arrival of a movie star, they all **sat up and took notice**. (AHD1)

彼が、映画スターがやってくるという話をしたら、みんな途端に話をしっかり聞き始めた。

- (13) a. sit up (and do sth) (*informal*) to start to pay careful attention to what is happening, being said, etc (OALD8)

sit up (and do sth) (インフォーマル) 起こっていること、誰かが言っていることなどに対してしっかりと注意を向け始める

- b. The proposal had made his clients **sit up and take notice**. (OALD8)

その提案を聞いて、彼のクライアントたちはしっかりと話を聞く姿勢になっていた。

sit up and take notice が「注意を向ける」という変化を表わすと考えているという点では、上の全ての英英辞典の定義文および (3) の説明文は一致している。

CALD3 と OALD8 は「急に」という要素を定義文に含めていないが、筆者には、これは含めておいた方がよいように思われる。というのも、2.2 節で示すように、sit up and take notice というのは何か明確なきっかけがあってそれによって注意を向け始めるところにスポットライトをあてるのに用いることが多い表現だからである。驚きや関心を示すようになるという変化と、それを引き起こした原因が話者によってはっきり認識される場合、たいてい、その変化はその話者の目に急速な変化として映っているだろう。

LDOCE5 の定義文 (9b) は、その他の英英辞典の定義文および (3) の説明とずいぶん異なっている。sit up and take notice する主体が注目する対象が人間に限定されているのである。筆者はこの限定を不当な限定と考える。確かに、(4), (5), (9b) のように、甘く見ていた相手 X が素晴らしい作品を書いたり成功をおさめたりしたら、その作品と成功という驚くべき事態に目を向けるとともに、その先にいる人間 X に注目するようになる。このようなケースでは LDOCE5 の定義文 (9b) は適切だと言える。しかし、sit up and take notice の使用場面を観察してみると、驚くべき事態のその先に驚くべき人がいる場合ばかりではないということが分かる。(6) や (10b) を参照されたい。

以上の辞典類と実例の観察から、ひとまずの結論として sit up and take notice は次のような意味を表わすと考えておく。2.2 節ではこれに微修正を加える。

- (14) sit up and take notice の意味：「たいしたことはない」、「注目に値しない」とたかをくくっていたのが、急に關心や驚きを示しだす

2.2 sit up and take notice の使用

今度は、sit up and take notice というフレーズが実際のところどのように使われているかを調べてみよう。前節のように sit up and take notice の「意味」に注目するだけでは、母語話者が sit up and take notice について知っていなければいけないことの全てを掴んだことにはならないかもしれないのである。たとえば「治安」という日本語単語について考えてみよう。「治安」は「特定の地域の安全性」の意味を持つということを知るだけでは、「治安」という言葉をまともに使えるようにはならない。「治安が高い [低い]」と言ってしまったりかもしれないからである。「治安」という語を習得するためには、「治安が良い [悪い]」のようにして使うのだという使い方の知識も得なければならない。また、あなたが英語母語話者なら、他の英語母語話者たちと同じように make A of B 「B を A と解釈する」を使えるようになるためには、「not know [be sure/ etc.] what to make of st/sb や What do you make of st/ sb? の形をとることが多い」(マケーレブ & マケーレブ 2006) ということを知らなければならないし、他の英語母語話者たちと同じように put one's money where one's money is 「実際に金を賭ける」を使えるようになるためには、「命令形であることが多い」(マケーレブ & 安田 1983) ということを知らなければならない。sit up and take notice も同じだ。もしかすると、sit up and take notice は感嘆文で出てきやすいとか、ふつう時を表わす副詞句と共に起るとか、そういう使用上の注意があるかもしれないのだ。だから、調べてみなければいけない²。

本稿では、それを調べるにあたって、大規模なアメリカ英語コーパスである COCA を利用する。まず動詞の sit と take の活用形もヒットするように、[sit] up and [take] notice を検索式として検索する。すると次のような結果が得られる。

表 1 [sit] up and [take] notice の動詞活用の頻度分布³

[sit] up and [take] notice	頻度
sit up and take notice	80 (89.8%)
sat up and took notice	6 (6.7%)
sitting up and taking notice	2 (2.2%)
sits up and takes notice	1 (1.1%)
合計	89 (100%)

² この段落の背後にあるのは言語の「使用基盤モデル」(usage-based model) である。日本語母語話者が「治安」という言葉の意味を「特定の地域の安全性」のように理解できているのは、「治安が良い [悪い]」「治安を守る」といった具体的な表現の使用に触れ、記憶し、共通性を抽出したからである。そして、その共通性を抽出した後も、つまり「治安」=「特定の地域の安全性」と分かった後も、「治安が良い [悪い]」「治安を守る」といったフレーズを忘れずに覚えている。自分で「治安が良い [悪い]」と言うときも、丸ごと覚えた「治安が良い [悪い]」をそのまま使おうとするのであって、「治安」の意味と「が」の意味と「良い」の意味を足しあわせて一から自分で作ろうとするのではない。このような考え方については、理論的な出発点として Langacker (1988) と、実例が豊富な最近の研究として Bybee (2010) と Taylor (2012) を、特に参照されたい。

³ 各項目の頻度は小数点第二位以下を切り捨てて表記している。

見ての通り、[sit] up and [take] notice の動詞部分の形は、原形に著しく偏っている⁴。この言語事実自体、面白いものではあるが、もっと重要なのは、この言語事実を引き起こしている最大の原因と思われる、もう一つの言語事実である。

それは、sit up and take notice は使役動詞の補文内 (make someone do の原形不定詞部分や、cause someone to do の to 不定詞部分) に現われることが多いという事実である (表 1 に見られた、動詞の原形への偏りのうち、かなりの部分がこれにより説明されるように思われる)。COCA 内の[sit] up and [take] notice の用例 89 件のうち、55 件 (約 61.7%) がこれに該当する。内訳を表にまとめると以下のようなになる。

表 2 sit up and take notice を補文とする使役構文の頻度分布⁵

sit up and take notice を補文とする使役構文	頻度
[make] ... sit up and take notice	45 (50.5%)
[cause] ... to sit up and take notice	5 (5.6%)
[get] ... to sit up and take notice	3 (3.3%)
[command] ... to sit up and take notice	1 (1.1%)
[inspire] ... to sit up and take notice	1 (1.1%)
合計	55 (61.7%)

中でも make がもっともよく使われているのが分かる。[sit] up and [take] notice の使用例のうち約半分を make ... sit up and take notice が占めているのである。おそらく、母語話者は make... sit up and take notice を中心例として覚えて、それとの類推で時々 cause や get など他の使役動詞を用いているのであろう⁶。

以上のことを踏まえて、sit up and take notice の意味(14)に微調整を施し、さらに使用についての発見も含めて、記述を次のように改めよう。

- (15) sit up and take notice の意味と使用 : sit up and take notice は、「たいしたことはない」、「注目に値しない」とたかをくくっていたのが、何らかのきっかけによって、急に関心や驚きを示しだすことを指す。主に使役動詞 make の使役補文内で使われる。

3. sit up and take notice とその構成要素の関わり

⁴ このような頻度の偏りは言語の習得を助けるということが知られている。Casenheiser and Goldberg (2005) を参照。

⁵ 表 2 と同様、各項目の頻度は小数点第二位以下を切り捨てて表記している。

⁶ これは、認知心理学および認知言語学の術語を用いて言い直せば、プロトタイプ効果 (prototype effect) が見られるということであり、make... sit up and take notice は sit up and take notice を含んだ使役表現の「プロトタイプ」(prototype) だということである (プロトタイプについては大堀 (2002) を参照)。また、使役構文は sit up and take notice にとってプロトタイプのな使用環境だということも言える。言語表現の使用環境に見られるプロトタイプ効果については平沢 (2014a) も参照されたい。

3.1 sit up and take noticeとsit upの関わり

以下に引用した辞書の記述にあるように、sit up は、and take notice が続かなくても、「急に注意を向けだす」という意味を表わすことができる。各 a 文が定義文に、各 b 文が例文に対応する。

- (16) a. **sit up** Become suddenly alert (AHDI)
sit up 急に注意を向けた状態になること
- b. The student **sat up** when he brought up the test. (AHDI)
先生がテストの話をしだすと、その生徒は急に話をしっかり聞き始めた。
- (17) a. **sit up** *INFORMAL* to show interest or surprise (CALD3)
sit up (インフォーマル) 興味ないし驚きを示すこと
- b. The news that he was getting married really made her **sit up**. (CALD3)
彼が結婚するという知らせを聞いて、彼女は本当にぎょっとした様子を見せた。

従って、sit up の意味は sit up and take notice の意味と密接に関連していると言える。

sit up の (16) と (17) にあるような「注意・関心」の意味は、sit up が持つまた別の意味である、「身を起こす、(身体的・物理的に) 姿勢を正す、背筋を伸ばす」と関連していると言えるだろう。なお、この意味の sit up は頻繁に副詞 straight 「まっすぐに」と共起する。

- (18) She **sits up** straight, crosses her legs, and holds her mug with pinky and thumb out, Kelly Ripa-style. (Emily Giffin, *Baby Proof*)
彼女は背筋を伸ばし、脚を組み、マグをケリー・リップパ風に握って親指と小指がぴょんと外へ飛び出るようにする。
- (19) As Martin gradually emerges from his torpor, he notices the bare arm lying across his chest, then realizes that the arm is attached to a body, and then **sits up** straight in bed, looking like someone who's just been given an electric shock. (Paul Auster, *The Book of Illusions*)
半睡の状態から徐々に抜け出つつあるマーティンは、そのむき出しの腕が自分の胸に横たわっているのを目にとめ、それから、その腕が一個の肉体につながっていることに気がつき、ベッドのなかでがばっと、電気ショックを受けたような顔で起き上がる。
(柴田元幸 (訳) 『幻影の書』)

人間が身を起こして背筋をまっすぐに伸ばす理由にはいくつかありえる。たとえば、寝ていたから誰かが急に入ってきて驚いたからという場合もあれば、同じ姿勢を取り続けて疲れたからという場合もある。そして、気を抜いてはいけなそうと思って一言ってみれば心の姿勢を正すのと連動して—身体の姿勢を正すという場合があるだろう。この三つ目のケースが、(16) と (17) で見た sit up の意味に、ひいては sit up and take notice の sit up の意味につながっていくのだ

と考えられる。

さらに、(A) ((16) と (17) で取り上げられている用法の) sit up とその構成要素である sit の関係、および、(B) ((16) と (17) で取り上げられている用法の) sit up とその構成要素である up の関係について、もう少し掘り下げて考えておこう。心的な態度・姿勢を表わす sit up は、身体的・物理的な姿勢を表わす sit up としか関連づけられないのだろうか。筆者は、母語話者の頭のなかで、心的な態度・姿勢を表わす sit up が、身体的・物理的な姿勢を表わす sit up 以外の sit や up の用法とも、ある程度の関連づけが行われている可能性があると考えている（ただし、脳内での関連づけを科学的に証明することは不可能であり、筆者はあくまでも「可能性がある」としか言っていないことに注意されたい）。まず(A)について。英語では心的態度を表わす複合表現（複数の語からなる表現）に sit が用いられることがよくある。ここでは sit around と sit by を紹介するにとどめておく。

- (20) sit around (*doing [and do] something*) [sɪdəraʊnd] (話)⁷ (何もしないで) だらだらしている 日常会話でよく使われ、小説などにも多く出てくるが、日本語に置き換えにくい言い回しの一つである。直訳すれば「あちこちに座って(～する)」で、事実、そう訳されていることもよくあるが、適訳だといえない場合が多い。なるほど sit around というのだから「座っている」場合が多いだろうが、これは「(有益なことは何もせず)ただくつろいで漫然と時を過ごしている」状態や態度を表わす言い方であって、本質的には、座っている、いないはどうでもいいことである。なお、主語にくるのは一人の人のこともあれば、複数の人のこともある。I wish I could find a job. I get tired of sitting around doing nothing all day. (仕事が見つかるといいなあ。一日中何もしないでだらだらしているのはうんざりだ)。よく just を入れて調子をつける。Don't just sit around. Do something! (だらだらしているんじゃないよ。何かやれ)。It's foolish just to sit around waiting for help that may never come. (あてにできない助けを待って、何もせず、ただ漫然と時を過ごしているのはばからしい)。Most days we just sit around and chew the rag. (ほとんど連日、私たちはただ漫然とおしゃべりに時を費している)。A: What are you doing now? B: Nothing. Just sitting around. (A「いま何してるの?」B「何も。ただぼけっとしているだけだ。)。We were sitting around listening to records when there was a loud knock at the door. (私たちがぼんやりとレコードを聞いていたところ、荒々しくドアを叩く音がした)。 (マケーレブ&安田 (1983))

- (21) Sophie: Bob Dylan walks up to you and he says, "You are a horrible songwriter." How do you react?
Alex: I would be horribly depressed. Yes. I would. I would. But then, after months of

⁷ (話)は「主として話すときに使う表現。くだけた雑誌や親しい人への手紙などには使われるが、改まった文章を書くときにはふつう使うのを避ける表現」の意。

brooding, I would find a lyricist⁸ and write a song about how horribly depressed I was. And it would be a big hit, everyone would love me, and I'd make lots of money. And suddenly I'd be a lot less depressed than if I just **sat around** being a little bit self-indulgent, letting my misery eat away at me, until I'd become an emotional wreck and creatively completely moribund. Yes, moribund.

(映画 *Music and Lyrics*)

ソフィー： ボブディランが歩いてきて、「お前は曲を書くのが下手くそだな」って
言ってきたら、あなたどうする？

アレックス： ひどく落ち込むね。うん、落ち込む、落ち込む。でも、何ヶ月か頭を
抱えた後、ある作詞家と出会って、僕がどれだけ落ち込んだかの歌を
書くんだった。それが大ヒットで、みんな僕のファンになって、僕は大金
持ちになる。すると憂鬱はスッとなくなるんだ。何もせずにボーッと
して、ちょっぴり好き放題の暮らしをして、とことんまで惨めな気持
ちに取り憑かれて、しまいには心の死んだ人間になって、クリエイテ
ィビティーが完璧に瀕死になってしまうのとは違うんだ。そう、瀕死
になってしまうのとはね。

- (22) Do you think I'm going to **sit by** and let some muscle-bound hedonist throw me out of what is
rightfully mine? (Columbo, Episode 19, Any Old Port in a Storm)

この私がただ黙って、融通の効かない利益追求主義者の言いなりになって、自分の持
ち家から出て行くとも思うか。

次に、(B)について。英語では、意識がはっきりしている状態や集中している状態を表わす複合
表現に **up** が用いられることはとても多い。

- (23) So listen **up**. Because here's what you need to know from me.

(Mitch Albom, *The Five People You Meet in Heaven*)

だからよく聞くのだ。私から聞いておかねばならないことを、今から言うからな。

- (24) Mike woke **up**⁹. He didn't need changing. (Rebecca Brown, *The Gifts of the Body*)

マイクは目を覚ました。服を替えてやる必要はなかった。

こうした事実から、「注意を向ける」の **sit up** が、母語話者の頭のなかで、心的態度の **sit** の諸

⁸ この a lyricist 「ある作詞家」は暗にソフィーのことを指している。アレックス（作曲担当）は、ソフィー（作詞担当）が自分の曲のために書いてくれる歌詞が素晴らしいものになる（大ヒットにつながる）であろうことをほめかしているのである。

⁹ 基本的に wake up 「目が覚める」は get up 「起き上がる」とは違って姿勢の変化を含意しない。純粋に無意識状態から意識状態に変わることを指すのである。

用法や、意識レベルが高まった状態を表わす *up* の諸用法と結びつけられている（それによって「注意を向ける」の *sit up* が英語らしい表現である、しっくり来る、と感じられている）可能性がある。

以上、3.1 節では、*sit up and take notice* の *sit up* が、*sit up* の他の使用パターンと関連していること、さらにその *sit up* の *sit* と *up* も、*sit* と *up* の他の使用パターンと関連していることを論じた。

3.2 *sit up and take notice* と *take notice* の関わり

take notice は次の例文にあるように「注意・意識を向ける」という意味で用いられるコロケーションである。

(25) **Take no notice** of what he says. (OALD8)

あいつの言うことには一切耳を傾けるんじゃないぞ。

(26) [...] I did my task well enough that he had no cause to **take notice** of me [...]

(Brian Evenson, "Dapplegrim" from *Windeye*)

[...] 仕事をそつなくこなしていたので、王が私に注目する理由もなかった [...]

(27) A great racket was swirling around him by then, but Mr. Bones was too ill to **take notice**.

(Paul Auster, *Timbuktu*)

そのころにはもう周りはひどく騒々しくなっていたが、ミスター・ボーンズはそれも頭に入らないくらい具合が悪かった。 (柴田元幸 (訳) 『ティンブクトゥ』)

従って、*sit up and take notice* の意味が *take notice* の意味と密接に関連していることは明らかであり、これ以上説明の必要はないだろう。むしろ、ここで不思議に思えてくるのは、*sit up* だけ、ないし *take notice* だけで同じ意味を伝達できるのに、どうしてわざわざ *sit up and take notice* という言い方をするのか、そしてどうしてそれが自然に思えるのかということではないだろうか。COCA には、*take notice* と言おうとして *sit up and take notice* と言い直したと思われる例まで見られる。

(28) I think that that is important evidence and I hope that the law enforcement agencies will **take—sit up and take notice** of it. (COCA)

これは重要な証拠だと思います。法執行機関がしっかり注意を向けてくれるとよいのですが。

このような例を前にすると、*sit up and take notice* というフレーズにはよほど英語としてしっくり来る何かがあるのだろうと思えてくる。次節3.3ではこの問題について答えを出してみたい。ヒントになるのは、*VP₁ and VP₂* という構文の性質である。

3.3 sit up and take noticeとVP₁ and VP₂の関わり

sit up and take notice は、VP₁ and VP₂ という構文の VP₁ スロットを sit up が埋め、VP₂ スロットを take notice が埋めることによって成り立っている。この VP₁ and VP₂ という構文には、たとえば brush your teeth and go to bed (歯を磨いて寝る) や drink and drive (酒を飲んで運転する) のように、VP₁ と VP₂ が全く別の行為を指し、そのためどこまでが VP₁ の意味でどこからが VP₂ の意味であるかが明確である用法もあるが、そうでない用法もある¹⁰。本節 3.3 では、sit up and take notice がこの「そうでない用法」にあたること—具体的には sit up and take notice 全体で一つの変化を指しており、sit up はその変化のはじめの方を指しており take notice はその終わりの方を指しているというぼんやりとした区別のみが可能であること—を示す。

まず、3.1 で sit up には物理的・身体的な意味を表わす用法と心的態度を表わす用法があるということを述べたが、これは過度に単純化した言い方であり、修正が必要であることを指摘したい。この二つの用法は明確に切り分けられるものではなく、混ざり合うことが十分にありえるものなのである。話し手が、心的態度の用法で sit up を使いながら、頭の中で同時に物理的・身体的な姿勢の変化を想像していても、何らおかしくない。ジェスチャーをつけても不自然でない。たとえば例文 (17b) で、知らせを聞いた女性が背筋を伸ばす動作をしているところを発話者が想像していたりジェスチャーで表現していたりしても、まったく不自然にはならない。

sit up の「元の図」を思い浮かべても、思い浮かべなくても、どちらでもよいのである。このような「どっちつかず」状態の表現が存在すること、言語の世界がそんなにきれいに仕分けられていないことは、積極的に認めるべきだろう。「図」が全くイメージされない「目が釘付けになった」のような表現もあれば、「図」が必ずイメージされる「足の小指をたんすの角にぶつけちゃったよ」のような表現もあるが、その間には、「襟を正して頑張っしてほしい」のように、「図」を思い浮かべても浮かべなくてもよい表現がたくさんあるのだ。襟を直す動作を想像する人もいれば想像しない人もいるだろう。また、同じ個人に注目しても、あるとき襟を思い浮かべてジェスチャーもつけたが別のときには襟のことを想像しないということがあるだろう。このような自由が残された表現として sit up を捉えなくてはならない。

要するに、sit up の方は「注意を向ける」を表しつつ「物理的・身体的に姿勢を正す」の方の

¹⁰ これを、言語学の用語を使って言い換えると、「VP₁ and VP₂ という構文の意味は、必ずしも合成的 (compositional) なものであるとは限らない」ということである。

- (i) 複数の有意味な要素 (語彙項目など) から構成される複合的な表現 (典型的な文など) の意味が、これらの要素がもともと—コンテキストから独立して—有すると考えられる意味をその表現の文法構造に従って組み合わせることによって、過不足なく得られる時、その表現の意味は完全に合成的であると言う。現実の言語使用において複合的な表現 (以下では文と呼ぶ) によって伝達されるメッセージはその文の完全に合成的な意味とは異なるのが普通である。 (斎藤・田口・西村編 2015: 84)

kick the bucket 「くたばる」は (どうしてバケツを蹴飛ばすとかくたばってしまうのか分からないので) かなりの程度非合成的な意味を表し、I love you. 「愛してるよ」はかなりの程度合成的な意味を表わすと言える。その中間に属するのが、keep someone in the dark 「(人) には情報を教えないでおく」や catch someone red-handed 「(人) が悪事を働いている現場を目撃する」—そして今回の sit up and take notice—などである。

意味も同時に立ち上がることがあるということだ。このことと、take noticeは「注意を向ける」という意味を表すことを考え合わせると、sit up and take noticeではsit upのカバーしうる意味領域のうちの一部がtake noticeの意味領域と重なっている、ということになる。それでは、sit upに許されている意味の可変部分は、sit up and take notice全体の意味に何をもたらしているのだろうか。

私は、sit upが身体的姿勢解釈にも転べるようになってきていることにより、sit up and take noticeが（注意が向いた完成状態だけでなく）注意の向きはじめまで意味の焦点の中に取り込めるようになっていないかと思う。人が、完全に聞き入ったり見入ったりしているところだけでなく、そうなる前に、「えっ」と驚いて無意識に身を起こし、背筋を伸ばしていくところ——ここでは身体的姿勢解釈と心的態度解釈が渾然一体となっている——まで映し出すには、take noticeよりもsit up and take noticeの方がよいのだ。(28)の話し手はきつと、身体的姿勢解釈と心的態度解釈が渾然一体となったこの起動部分まで聞き手にイメージさせたかったのだろう。そう考えれば(28)の一見不思議だった言い直しも説明がつく。また、例文(6)(以下に(29)として再掲)のようにsit upとtake noticeの間に時間句が挟まる例が存在することも不思議ではなくなる。

- (29) Naked bodies. Down-to-earth sex. Childbirth. Urination, defecation. Those scenes are a bit shocking at first, but the shock wears off rather quickly. They're a natural part of life, after all, but we're not used to seeing them presented on film, so we **sit up** for a couple of seconds **and take notice**.
(Paul Auster, *The Book of Illusions*)

裸体に、日常のセックス、出産。排尿に、排泄。こういうシーンを見せられると、はじめは少しぎょっとしてしまうけれど、そのショックも案外すぐにやわらぐの。なんだかんだ言って日常生活の一部だからね。でも、映画で見せられることには慣れていないから、数秒の間ハッとさせられたあと、しっかり見入ってしまう。

もしもsit up and take noticeのsit upが「注意を向ける」の意だけを表すのであれば、それはまさにtake noticeが表している意味でもあるわけだから、上のようにsit upにだけfor a couple of secondsをつける理由が説明できない。本稿のように、身体的姿勢解釈と心的態度解釈に癒着を起こさせ、注意の向きはじめの方を焦点化するのがsit upなのだという立場に立てば、日常生活を映画のスクリーンで見せられることに驚き、ハッと身を起こしていく数秒の様子をsit up for a couple of secondsと言っているのだと考えることができる。最後のand take noticeはもちろん完全に見入った状態になることを表わす。

多くの場合、(29)とは違って、sit up and take noticeは間に何も挟まらず連続した形であらわれる。このとき、どこまでがsit upの意味でどこからがtake noticeの意味なのかを明確に区切ることではできない(実は(29)でも、sit upの時点で注意・関心は持ち始めているわけだから、一連のプロセスの中のどこかでsit upが終わってtake noticeが始まったわけでは決してない)。sit

up and take notice は、これ全体で、注意を向けていない状態から注意を向けている状態になる変化をあらわすのである。sit up はどちらかといえばそのはじめの方を担い、take notice はどちらかといえばうしろの方を担うというゆるやかな区別のみが可能となる。

VP₁ and VP₂ という構文がこれ全体で一つのプロセスを指しており、そのプロセスのうちどこが VP₁ で表されていてどこが VP₂ で表されているのか分からない、という例は英語にたくさんある¹¹。ここでは二つの例を挙げる。一つは頼み事をする際に用いられる次のような表現である。

- (30) Be a pal **and** hand me a 5/8-inch wrench out of that toolbox. (映画 *Back to the Future II*)
悪いが、その工具箱から 5/8 インチ・レンチを取ってくれんかの。
- (31) Be a darling **and** don't mention I'm here. (ODE)
お願いだから、僕がここに来てること、黙っておいて。
- (32) Be a dear **and** fetch me my coat. (OALD8)
ちょっとコート取ってもらってもいいかしら。
- (33) Come on, Steph. Be a bud **and** nourish the little drool puppies.
(*Full House*, Season 5, Episode 23, Five's a Crowd)
勘弁してよ、ステフ。カリカリしないで、そこのよだれ垂らしてる子犬二匹に餌やっ
てよ。
- (34) So would you just do me a favor **and** stop trying to be my dad?
(*Full House*, Season 5, Episode 18, Too Much Monkey Business)
それじゃあ、お願いだから、俺の父親になろうとするのをやめてくれないか。

これらの例で話し手は VP₁ and VP₂ 全体で依頼をしているのである。VP₁ の部分だけ取り出すと「優しい友になってくれる」「いいことをしてくれる」となるが、これと VP₂ が表わす行為が別々の二つの行為として存在しているわけではない。

もう一つの例は、go ahead and do... である。以下のうち、(35a) は定義文、ほかは例文である。

- (35) a. go ahead and do 「勝手に～する、自分の判断で行動する」
b. Since you were late, I **went ahead and** ordered dinner for both of us.
あなたの来るのが遅かったから、勝手に 2 人分の食事を注文しちゃった。
c. You can't **go ahead and** do things without permission.
許可なしに勝手に事を進めるわけにはいかない。
- (マケーレブ&マケーレブ 2006)

¹¹ NP₁ and NP₂ など他の品詞でも同様のことが言える。たとえば *hustle and bustle*, *cool, calm and collected* など。

(36)



(Charles M. Schulz, *Snoopy: Cowabunga!*)

- 1 コマ目： あんたの書く物語にはいつも心ってもんが欠けてるわ。
- 2 コマ目： もっとこう、男の子が女の子と出会って、別れて、でも復活、みたいなのが書いたらどうなのよ。
- 3 コマ目： これからは手伝ってあげようか。
- 4 コマ目： 良い考えね。早速そこに登って、手伝ってあげる。
- 5 コマ目： さて、それじゃ…大丈夫、安心して。ここに座って、書くのを見ていてあげるからね。まずいところがあったらその場ですぐに指摘してあげる。
- 7 コマ目： あのねえ、さっさと書き出しなさいよ！！心のなかをありのまま書きなさい！
- 8 コマ目： 帰れ！

こうした用法では go ahead の部分が特定の動作を指しているわけではないので、go ahead and do 全体を一つの単位とみなして辞書に掲載する必要がある。上のマケーレブ&マケーレブ (2006) の他に、『ロングマン英和辞典』は go ahead の第 2 義「〈人・組織・政府などが〉実施に踏み切る」の中で、go ahead and do sth 「〈…〉することに踏み切る、あえて〈…〉する」としている。しかしこのような実情に気がついている辞書は多くないようだ。『ウィズダム英和辞典』(第 3 版)、CALD3、LDOCE5 など、go ahead and do は go ahead の例文として現われるのみで、go ahead and do 自体を単位として扱ってはいない。

以上、3.3 節では、sit up and take notice が表わす意味の中のどこが sit up の意味でどこが take notice の意味であるかは、明確に区切ることはできないものの、sit up はどちらかと言えば注意・関心の立ち上がりの方の部分を（身体的姿勢変化解釈と癒着する形で）表して、take notice がどちらかと言えば一連のプロセスの終わりの方を表していることを論じた。そして、このように明確な内的境界線を持たない VP₁ and VP₂ 構文が sit up and take notice 以外にも見られることを指摘した。

3.4 sit up and take notice の性質は予測可能か

3.1 節から 3.3 節では、sit up and take notice に sit, up, take notice, VP₁ and VP₂ 構文が用いられていることは偶然ではないこと、言い換えるなら、sit up and take notice において sit, up, take notice, VP₁ and VP₂ 構文が果たしている役割は、sit, up, take notice, VP₁ and VP₂ 構文が sit up and take notice 以外の諸表現において果たしている役割と密接に関わっていることを論じた¹²。それでは、sit, up, take notice, VP₁ and VP₂ 構文が sit up and take notice 以外の諸表現において果たしている役割さえ知っていれば、sit up and take notice の性質は予測可能であり、sit up and take notice という言い回しを一つの単位として覚える必要はない、ということになるのだろうか。

私は、そうではないと考える。sit up and take notice はやはり丸ごと覚えなければいけない表現である。まず、sit up が「注意を向ける」の意味で慣習化していることが予測不可能である。「注意を向ける」という意味と結びつきうる動作は「身を起こす、背筋を伸ばす」ばかりではなく、「顔を上げる」(look up) や「振り返る」(turn around) などもあるにもかかわらず、look up や turn around は「注意を向ける」の意味で慣習化していない。たとえば、(16b) と (17b) (以下で (37a), (38a) として再掲) では、実際に身を起こしたり背筋を伸ばしていたりする必要はないが、(37b), (37c), (38b), (38c) では文字通り顔を上げたり振り返ったりしていなければならない。

- (37) a. The student **sat up** when he brought up the test. = (16b)
先生がテストの話をしだすと、その生徒は急に話をしっかり聞き始めた。

¹² これは、認知言語学一般の用語を用いて言い換えるならば、「sit up and take notice の意味・用法は、その構成要素である sit up や take notice, VP₁ and VP₂ などの意味・用法に動機づけられている」ということであり (Goldberg 1995: 69, Langacker 2008: 5-14)、一部の認知言語学者の言葉を用いるならば「sit up and take notice の意味・用法は、その構成要素である sit up や take notice, VP₁ and VP₂ などの意味・用法に生態的地位 (ecological niche) を与えられている」ということである (Lakoff 1987: 438, Taylor 2004, 平沢 2014b)。

- b. The student **looked up** when he brought up the test.
先生がテストの話をしだすと、その生徒は顔を上げた。
- c. The student **turned around** when he brought up the test.
先生がテストの話をしだすと、その生徒は振り返った。
- (38) a. The news that he was getting married really made her **sit up**. = (17b)
彼が結婚するという知らせを聞いて、彼女は本当にぎょっとした様子を見せた。
- b. The news that he was getting married made her **look up**.
彼が結婚するという知らせを聞いて、彼女は顔を上げた。
- c. The news that he was getting married made her **turn around**.
彼が結婚するという知らせを聞いて、彼女は振り返った。

ということは、sit up が文脈によって「注意を向ける」の意味を持ちうることまでは「身を起こす、背筋を伸ばす」という行為をするときの状況を考えてみれば理解できるとはいえ、sit up がその「注意を向ける」の意味で慣習化していることまでは予測できず、sit up をそのような意味で用いることができるということは、結局覚えなければならないのである。

では、sit up と take notice と VP₁ and VP₂ 構文を覚えれば sit up and take notice を覚える必要はないかと言えば、それも違うだろう。take notice と同じように「注意を向ける」ことを表わす pay attention を用いて sit up and pay attention という言い方をする頻度は、sit up and take notice に比べて低い。これは、pay attention 自体の使用頻度が take notice 自体の使用頻度に比べて高いことと比べてみると、注目すべき事実である。COCA での検索結果をまとめたのが表 3 である。

表 3 [take] notice と [pay] attention の使用頻度

	[take] notice	[pay] attention
単体での使用頻度	1097	8567
[sit] up and _____ の使用頻度	89	14

この言語事実は、「母語話者は sit up and take notice を一つの決まった言い回し¹³として記憶している」と考えなければ説明がつかない。

4. 結語

本稿では、英語の sit up and take notice というフレーズの意味と使用の特性を明らかにし、それは sit up, take notice, VP₁ and VP₂ 構文といった構成要素の意味と使用の特性と密接に関連してい

¹³ 「決まった言い回し」と書いたが、こういう時にどのような言い方をするのが適切かは難しい問題である。kick the bucket「くたばる」と違って、構成要素から全くもって予想できない意味を表わすわけではないので、「熟語」とか「イディオム」とかいった言い方をしてしまうと、「それは熟語、イディオムではない」という反論が予想される。このようなとき、英語では prefabricated chunk という言い方をすることがある (Bybee 2010, Barlow 2000) が、日本語ではこれに対応する定訳がない。

ること、そして、そうはいつでも母語話者はsit up and take noticeというフレーズを一つの単位として記憶している可能性が高いことを論じた。

本稿の締めくくりとして、本稿の考察と、英語教育に関する二つの潮流との関係について一言触れておきたい。私の知る範囲では、英語教育において相反する二つの立場が力を持っている。それは「とにかく覚えなさい」派と「理屈を理解すればそれでいい」派である。前者は、生徒が「この表現はどうしてこのような意味になるんですか」と訊かれたら「それはそういうものなんです。仕組みなんか考えている時間があったら、一つでも多くの表現を覚えなさい」と答える。後者は、色々な言い回しや例文を丸ごと覚えようとしている生徒に対して「仕組みを理解すれば暗記なんていらぬ」と言い、理屈だけを教えようとする。その両方では—つまり「仕組みや理屈を理解した上で、丸ごと覚えましょう」という言い方では—何がいけないのだろうか。認知言語学の中の優れた研究が明らかになってきた、言語が持つ使用基盤的な性質(脚注2参照)からすれば、英語教師が選ぶべき言い方は「仕組みや理屈を理解した上で、丸ごと覚えましょう」となるはずであり、sit up and take noticeはまさにそのことを理解するのに良い例だと思うのである。

参考文献

- Barlow, Michael (2000) Usage, blends, and grammar. In Michael Barlow and Suzanne Kemmer (eds.) *Usage based models of language*, 315-345.
- Bybee, Joan (2010) *Language, usage and cognition*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Casenhiser, Devin and Adele E. Goldberg (2005) Fast mapping between a phrasal form and meaning. *Developmental science* 8(6): 500-508.
- Davies, Mark. (2008-) *The corpus of contemporary American English: 425 million words, 1990-present*. Available online at <http://corpus.byu.edu/coca/>.
- Goldberg, Adele (1995) *Constructions: A construction grammar approach to argument structure*. Chicago: University of Chicago Press.
- 平沢慎也 (2014a) 「『クジラ構文』はなぜ英語話者にとって自然に響くのか」『れにくさ』第5号 (柴田元幸教授退官記念号) 第3分冊: 199-216.
- 平沢慎也 (2014b) 「英語前置詞byの時間義」『言語研究』146: 51-82.
- Lakoff, George (1987) *Women, fire, and dangerous things: What categories reveal about the mind*. Chicago: Chicago University Press.
- Langacker, Ronald. 1988. A usage-based model. In: Brygida Rudzka-Ostyn (ed.) *Topics in cognitive linguistics*. Amsterdam: Benjamins.
- Langacker, Ronald (2008) *Cognitive grammar: A basic introduction*. Oxford: Oxford University Press.
- マケーレブ, ジャン・マケーレブ, 恒子 (2006) 『動詞を使いこなすための英和活用辞典』東京: 朝日出版社.
- マケーレブ, ジャン・安田一郎 (1983) 『アメリカ口語辞典』東京: 朝日出版社.

大堀壽夫 (2002) 『認知言語学』 東京：東京大学出版会.

斎藤純男・田口善久・西村義樹 (編) (2015) 『明解言語学辞典』 東京：三省堂.

Taylor, John R. (2004) The ecology of constructions. In: Günter Radden and Klaus-Uwe Panther (eds.) *Studies in linguistic motivation*, 49-73. Berlin: Mouton.

Taylor, John R. (2012) *The mental corpus: How language is represented in the mind*. Oxford: Oxford University Press.

辞書・辞典類

MWALED = Merriam-Webster's Advanced Learner's English Dictionary.

LDOCE5 = Longman Dictionary of Contemporary English, 5th edition.

LPVD = Longman Phrasal Verbs Dictionary.

CALD3 = Cambridge Advanced Learner's Dictionary, 3rd edition.

AHDI = The American Heritage Dictionary of Idioms.

OALD8 = Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English, 8th edition.

『ロングマン英和辞典』

『ウィズダム英和辞典』 (第 3 版)

The False Dichotomy between Understanding the Make-up and Remembering the Whole: The Case of *Sit Up and Take Notice*

Shinya Hirasawa

hiralingual1026@gmail.com

Keywords: usage-based, skewed frequency, ecological niche, bodily posture and mental attitude, compositionality

Abstract

The English verb phrase *sit up and take notice* refers to someone suddenly starting to show interest in, or surprise at, something that he assumed did not deserve attention. It tends to occur in the complement clause of a causative sentence with *make*, in which case the subject of *make* designates what has changed his attitude (e.g. *Her manuscript made the publisher sit up and take notice*). The meaning of *sit up and take notice* is closely related to the meanings that its components (*sit, up, sit up, take notice, VP₁ and VP₂*) are associated with elsewhere in the language. One could argue, therefore, that it is possible, at least to some extent, to understand the make-up of the phrase. Having said that, one cannot give a sensible answer to the question of what *exactly* all those parts are doing in the phrase: One cannot specify the meaning contributed by *sit up* and that contributed by *take notice* in a way that draws a sharp dividing line between them. Nor can one predict the fact that *sit up and take notice* (but not, say, *look up and take notice*) is a well-established expression based solely on the knowledge of *sit, up, sit up, take notice, and VP₁ and VP₂*. Therefore, the conclusion has to be that it is necessary, after all, to remember the phrase as a unit. This two-sidedness of what it means to know *sit up and take notice* points to the possibility that the opposition between understanding the make-up of a phrase and committing the whole to memory, though often invoked in linguistics papers and second language classrooms, represents a false dichotomy.

(ひらさわ・しんや 文京学院大学非常勤講師)